

2023年6月25日(日)
旭ヶ丘自治会

ゴミ箆設置と自治会内の環境美化



おやまだ まさみ
自治会長 小山田眞左美

旭ヶ丘自治会 ～その概況と変貌

《 旭ヶ丘自治会 》

- 近隣に森林公園、吉賀池湿地、濁池のある自然豊かな地域
- 東西南北旭の5つ町内会があり、また各町内会内に3～5組、合計20組、486世帯(6/1現在)が会員として活動に参加協力している
- 地域内には狭い道路や坂道が多い

- 高齢者世帯の増加
- 新型コロナ感染拡大の3年間を過ごし自治会活動に影響
- これまでの遊休地で宅地開発が進展
- 近年は集合住宅の新規立地が増加



地域の変貌と環境美化問題～新たな課題発生

- ① 宅地開発の進展により従来のゴミ集積所が使用不可になるケース発生
- ② 高齢世帯ではゴミを指定場所に運ぶことが困難になってきている
- ③ 道路幅が狭いことや丘陵地で収集車の通り抜けが認められない
- ④ ゴミ出しのルールを守らない例がみられる



ゴミ集積所について再調整の必要性が高まってきた

- ⇒ 自治会が解決の調整役として役割を果たす必要性
- ⇒ 当事者に聞き取りを行なったり話し合いの場を設定



従来のゴミ集積所が使用できなくなる事例

《経過》

- 町内の中心を縦断する道路の市民農園沿いにゴミ籠を設置し長年利用してきた組が複数ある
- 市民農園が7月21日に閉園し宅地開発される予定とのことで、ゴミ籠設置の代替場所を選定する必要性がでてきている
- 近年、類似の事例が多く発生



問題点



以下の理由から代替地の確保が困難

- ① 空き地の所有者・近隣の承諾が得られにくい
- ② 急な坂道沿いの高齢者の負担を考慮(将来、高齢者の個別収集の要望が増加する見込み)
- ③ 道路幅の関係で収集車の通り抜けが市から認められない
- ④ 新たに設けるゴミ籠の購入費用の負担

ゴミ問題は地域住民の毎日の生活に係わる重要な課題
直近のこの事例を解決する方法のひとつとしてエントリー

環境美化のベース ～ゴミの出し方問題

《事例 ①》

設置されたネットの外にゴミを放置。生ゴミを密閉しない。

《事例 ②》

プラスチックとその他のゴミが分別されていない。ペットボトルも混在する。

《事例 ③》

他地域の人が車で通りがかりに指定外袋に入れた分別していないゴミを集積所に置いていく。

事例 ①



事例 ②



その目的と効果・特徴

事業の目的

地域内にある市民農園が7月21日に閉園する。畑沿いに現在複数のゴミ集積所があり、それを別の場所に移す時期が迫っている。

該当する自治会員の皆さんが、できるだけ納得できる代替場所を設定するために、扱いやすいゴミ籠を提案したい。自治会内では宅地開発が進んでおり今後のゴミ集積所選定問題に対応するためのモデルケースにしたい。

期待される効果

自治会地域内のゴミ集積所問題の解決と環境美化の認識共有

事業の特徴

カラスによるゴミ散乱被害に地域全体で取り組み、きれいで住みよい町にする

《 ゴミ籠設置と自治会内の環境美化 》 その内容と方法等

実施場所

旭ヶ丘自治会内

予定参加人員

全世帯対象

内容と方法

上記4の対象世帯を優先してゴミ籠設置の希望者を募る。
その後、他の世帯にも呼びかける。

その他

ゴミ籠設置後はゴミ集積所の清掃の呼びかけを当事者を始め全世帯に行う。
またゴミの分別等出し方について改めて広報活動に努める。



実施のための予算

科目	予算額	うち助成対象 経費	経費の内訳	
需用費	224,485円	100,000円	コピー用紙	987円
			インク代	1,298円
			ゴミ籠(小)8個	167,200円 (20,900 × 8)
			ゴミ籠(大)2個	55,000円 (27,500 × 2)
計	224,485円	100,000円		



ご理解ご協力のほど
お願いいたします。